

名 称	しかまっ子地域活動支援センター
所 在 地	〒981-4122 宮城県加美郡色麻町四釜字北谷地142
連 絡 先	TEL : 0229-65-3110 FAX : 0229-65-3109

地域の現況・特色

活動対象地域の人口 色麻町 7, 8 2 6 人

色麻町は、宮城県のほぼ中央北西部、仙台から北へ約30kmに位置し、典型的な農業の町である。地形は東西約2.4kmと長いのに対し、南北は約5kmと狭いくさび型であるのが特徴で、総面積109.23km²、町の西部には奥羽山系に属する秀峰・船形山などが山岳地帯を形成し、四季折々に美しい表情を見せている。

歴史は古く、全長約56mにも及ぶ前方後円墳や直径50mもある円墳、更には推定約300基ともいわれる群集墳など学術的にも重要な遺跡が数多く発見されている他、「続日本紀」にも色麻町についての記述が見られることから、原始・古代を通じてこの地が政治・文化の両面において栄えていたと推定される。

さて、近年の青少年にかかわる様々な問題の背景には、地域や家庭の「教育力の低下」があると指摘されている。色麻町ではこうした現状を踏まえ、平成14年度から「地域教育力再生プラン」を策定し、家庭・学校・地域・行政が連携した「協働のまちづくり」のための施策を積極的に進めている。

コーディネートした事例の名称、概要、特色

名称 「地域ボランティア活動推進事業」

協働によるまちづくりを推進するには、子どもから高齢者まであらゆる層の地域住民が、ごく自然に、日常的にボランティア活動を行い、相互に支え合うような地域社会の実現を目指した施策が必要となる。そこで、学校・家庭・地域それぞれが連携を図りながら、ボランティア活動の場を設けることが大切になっている。

主な活動として、地域の方々が様々なボランティア活動について学ぶ機会の提供に心掛け、「マネジメント研修会」を開催した。ここでは、「ボランティアとは何か」、「ボランティアで大切なことは何か」などについて学び、参加者がともに考え、ボランティア活動に対するイメージをつかんだり、自分にできるボランティア活動を見つけたりするきっかけづくりになった。その中には、実際に町内会でボランティア活動を積極的に展開している方のお話を

聞いたり、防災や介護のボランティアの在り方を学ぶ内容等があった。

また、これまでに実際に活動してきた「防犯ボランティア」についても、警察OBの方を講師に迎え、防犯活動の心構えやコツなどを学ぶ機会を持つことができた。

このようにボランティア活動に関する様々な研修会を行ったことで、地域住民のボランティアについての考え方や意識が少しずつ変わってきた。人が生きていく上で「互いに支え合う」ことが重要であること、ボランティアは、できるときに気軽に行うことができるものであることが理解できたようである。

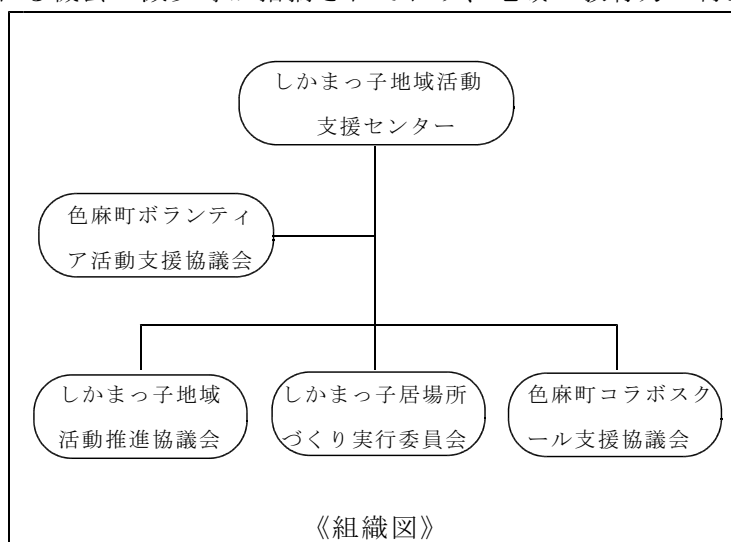
一方、学校の教育活動を学校と地域が協働で進める活動をめざし、これまで取り組んできた「コラボスクール」をさらに充実させるために「学校支援ボランティア」導入に向けた準備に取りかかった。これまでも地域住民の協力を得て、学校の教育活動、とりわけ「総合的な学習の時間」等での体験学習（稲作、えごま栽培、太鼓演奏、野外オブジェ等）において、地域住民の支援を受けながら充実した体験学習を行い、子どもたちは多くのことを学んだ。開かれた学校において、地域の教育力を活かし、子どもたちが生き生きと活動する姿は、学校と地域の連携の中で実現するものである。

学校支援ボランティアの立ち上げにあたり、学校の教育活動において学校側で求める人材の希望を聞き、それに合った人材の発掘を行っていく予定である。より实际的で活用頻度の高いボランティアの提供・協力を心掛けて行きたいと考える。

コーディネートの実際

これまで、右下図《組織図》の協議会から「しかまっ子地域活動支援センター」に対し、子どもたちの安全・安心な遊び場の不足や青少年が奉仕・体験活動、スポーツに親しむ機会の減少、多様な文化体験活動に触れる機会の減少等が指摘されており、地域の教育力の再生を図る多様な機会を提供することが緊急の課題となっている。

このため、地域の方々の協力を得て、地域に根ざした多様な体験活動や交流活動等の機会を提供することにより、社会全体で子どもを育む環境を充実させ、地域の教育力の再生を図ることをコーディネートしながら、各協議会と連絡調整し、学校・家庭・地域・行政が連携した「協働のまちづくり」を推進してきた。



これまでの様々な取組を通じて、より一層学校の教育活動に地域の教育力を生かしながら、学校をサポートする新たな体制づくりの必要性が語られるようになった。

この体制づくりをコーディネートするには、各学校が地域の特色を生かし、豊かで多様な

教育を行っていくため、教科指導、道徳教育、特別活動、クラブ活動など学校の教育活動に、保護者や地域住民の協力を得ることが必要である。地域社会の重要な核である学校を、地域に支えられ、また地域に貢献するという地域に根ざした学校にするためには、学校をより開かれた存在にするとともに、地域住民による多様な「学校支援ボランティア」活動の充実が重要と考えられる。

事業の具体的なねらいとして、①地域社会の教育力を学校へ導入することにより、学校における多様な教育活動の展開を支援するとともに「開かれた学校」の実現を目指す。②地域住民とともに子ども及び教職員のボランティア活動に対する理解を深める。③地域社会に住む人たちの学習成果をボランティア活動の中で生かしてもらえよう機会と場を提供するなどがあげられ、活動領域については下表のとおりである。

環境整備支援	校舎等の補修、窓ガラス清掃、草刈り、花壇づくり、植木の剪定、雪かき、図書整理、教材・教具作成、各種表示札作成、等
教育活動支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学科指導の補助（体験談、校外学習指導、読み聞かせ、等） ・ 学校行事、クラブ活動、部活動の指導 ・ 音楽活動（琴、三味線、太鼓、楽器指導、合唱指導、等） ・ 体験活動（農業体験、環境や自然保護、奉仕活動・自然体験活動、等） ・ 道徳指導、総合的な学習の指導、協働教育（コラボスクール）の指導、相談活動等の補助
安全整備支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 通学路の巡回（色麻町ウォーキングパトロール隊登録） ・ 校門でのあいさつ運動 ・ 「地域子ども教室」の指導者、安全管理者・預かり保育の補助、等

また、「学校支援ボランティア」活動を通してボランティアに必要な原則として

- ①自発性・主体性…まわりの人から強制されるものではなく、自分のできることを考えて積極的にする活動
- ②社会性・連帯性…誰でも安心して暮らしていけるように、みんなで協力し、支えあい、学びあう活動
- ③無償性・無給性…お金を求める活動ではなく、お金では得られない出会いや感動、喜びを得る活動
- ④先駆性・開拓性…社会で何が求められているかを考えながら、よりよい社会を自分たちの手でつくる活動

が養われることを期待している。今日までボランティア活動は、慈善活動や社会福祉であるというイメージから活動分野が広がり、ボランティア活動そのものが生涯学習に位置づけられるなど、ボランティア活動の意味も大きく変わると考えられる。

今後の課題として、町で取り組んできた生涯学習をベースに、学校独自でボランティアバンクを立ち上げ、コーディネーターを中心に「学校支援ボランティア」活動の体制を整備しながら、児童生徒・教師と学校支援ボランティアが学びの場を共有することが大切になって

